

令和6年1月27日

## 防犯防災部長あいさつ

元日早々に大きな地震が発生し、被災地では依然、復旧にむけた賢明な活動が続いています。犠牲者は200名を超え、津波よりも家屋倒壊や焼失での死亡者の多さが今回の特徴とのことでした。

今回の地震被害の大きなところは、①震災直後から交通網（特に生活幹線道路）の寸断で孤立地区が多く発生、救援や支援が思うように届けられなかったこと、②古い建物の倒壊被害が大きく、冒頭のように、犠牲者の多くが家屋等建物の下敷きによるものであったこと、③ライフライン寸断が長時間に及び、生き延びた住民も大変悲惨な避難生活を強いられたこと、をあげたいと思います。

10日ぶりに自衛隊員の姿を目にして涙があふれた（1月17日付読売新聞「能登地震現場報告・下」記事より抜粋）、との声をだされた地元の方は、孤立集落で水、電気が途絶え、冷凍庫の食材も全てダメになり、唯一の暖である灯油もほぼ底をつき、携帯電話も通じなかったとのことでした。生き延びる道が毎日どんどんなくなっていくことへの不安とストレスが相応にふりかかっていたことに心が痛みます。ライフラインが長時間使えず、しかもSOS手段となるべき電話がまったく使えないことは、仮に同じ規模の震災が柏市に起こっても同様の現象が確実に自分の身に迫ってくることを、是非皆さんやご近所さんで共有していただきたい、そして是非ともそうなるも当座は困らぬような備えをして頂きたいと思います。

なお、こうした大きな地震が国内で起こっても、「柏は大災害派起こらないから大丈夫」と思っている住民の皆さん、特に旧く（昭和50年くらい）からお住まいの方には決して少なくありません。そのため、柏市に近い茨城県南部などが比較的地震発生が多いことを特記した記事をこの機会にご紹介（添付）させていただきます。【本紙面の添付資料をご覧ください】

これは住宅購入を検討されている市民と建物の供給側を繋ぐ情報サイトの一つであるミニキュー「MINIQUE」と称するネットサイトへの掲載情報の引用です。この中では、地盤が比較的安定している地域、逆に安定していない茨城県内各地域がランキングされており、特に県南部の幾つかの自治体を含む、柏市に比較的近い地域の安定度が低くなっていること注目してください。

これまで何度か繰り返し申しあげていますが、津波被害がない柏市は地勢が千葉県内の他の地域に比べ安定しており、土砂崩れが起こりそうな地域が多くないことで、災害有事でも自衛隊や消防、その他の支援部隊やボランティアの人たちが優先的に派遣され難い地域と考えられます。一方、首都圏直下型で被害

が広範囲に及ぶような地震では、これまでに経験のない相応の大きな被害を柏市でも起こり得ることは覚悟しなければなりません。よって、公の助けや外部からの支援がほぼ来ないであろうこの柏の地では、自分達で何とかしのいでいかなければならないことを意味しています。

今後も、今回の能登半島大地震を教訓に、いかに住民一人ひとりが当事者意識を高め、災害に備えるかが大きなカギであり、それを促すのが、毎年実施する防災訓練ですので、来年度に向け今年一年間の活動総括とともに、次期役員（体制）への申し送りを確実にお願いいたします。

### 会議終了後の一言（お願い）

本日会議終了後、当会からトランシーバーを長期でお貸ししている団体の皆さんから、年一回の電波利用料を徴収させていただきます（既にお支払い済みの団体は対象外です）。長期貸出しトランシーバーは未だ3台当方に予備機材がございますので、当会から借用の実績のない団体で借用希望があれば遠慮なくお申し出ください。更に、本年度の自組織予算を利用してトランシーバーを新たに購入することをご検討の団体がございましたら、相談に応じますので、是非ご照会ください。本件は来月（2月24日）の会議でも改めてご案内します。

次回（2月24日）の会議においては、別紙でご案内のとおり、来年度の当部活動方針や事業計画の案を提示し、内容を協議検討して参ります。次回と3月の会合で今期は終了予定ですが、次期にご就任予定の役員の方のご出席も歓迎します。開催案内は本日の配付紙面をご覧ください。←後任者分も別途用意していますので、ご要望の方は必要部数を追加でお受け取りください。